The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	＜紹介＞廣岡義隆著『萬葉形成通論』
Author(s)	福山, 美都
Citation	語文. 2020, 115, p. 76-76
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/88513
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

廣岡義隆著『萬葉形成通論』

福　山　美　都

本書は、『萬葉集』に載る個々の作品の形成論を中心に、四十三編の論考を収載する。以下、目次によって本書の構成を示す。なお、副題と「はじめに」「おわりに」凡例や索引等は省略した。

第一部　萬葉汎論〔第一節 古典本文の取り扱いについて／第二節 萬葉の形成を考える／第三節 過去現在未来の表現／第四節 会話手法の双括式・頭括式・尾括式／第五節 比喩の文藝／第六節 ヨシ型枕詞の生成と展開／第七節「まかね」考／第八節 助辞「之」の様相／第九節 副詞の呼応と「未」字の再読／第一〇節『萬葉集』の成立と歌人〕

第二部　第一章　萬葉史通考 Ⅰ〔第一節 額田王歌の文学史／第二節 五月五日の詩宴／第三節「兎道の宮子の借五百」詠／第四節 額田王の三輪山の歌／第五節 初期萬葉の資料〕

第二部　第二章　萬葉史通考 Ⅱ〔第一節 人麻呂の流伝歌一首／第二節 阿騎野歌成立考／第三節 高市黒人の羈旅歌八首／第四節 長意吉麻呂の文学史的定位／第五節 志貴皇子歌の定位〕

第二部　第三章　萬葉史通考 Ⅲ〔第一節 旅人の「讃酒歌十三首」／第二節 憶良の後ろ姿／第三節 山部赤人の若の浦讃歌／第四節 山部赤人の伊豫温泉作歌／第五節 磐姫皇后歌群の形成／第六節 竹取翁歌の特性〕

第二部　第四章　萬葉史通考 Ⅳ〔第一節 高橋虫麻呂歌集の題詞／第二節 寶鎭としての不盡の高嶺／第三節 奈良における山居観の形成／第四節 坂上郎女の田廬景物詠／第五節 遣新羅使人歌における宴／第六節 山川隔（へな）る恋／第七節 大伴家持の亡妾悲傷歌／第八節 夷（ひな）に目を向けた家持／第九節 久米廣縄慰労の家持歌／第一〇節 巻第十九巻末歌群考／第一一節 防人とその家族／第一二節 防人の宴／第一三節 田園耕作歌の成立〕

第三部　余滴四篇〔第一節 金石文から見た上古／第二節 身﨑壽氏著『額田王―万葉歌人の誕生―』書評／第三節 宣長における萬葉学／第四節 高橋氏文の「給」字の用法〕

第一部第一節「古典本文の取り扱いについて」は、『萬葉集』研究における本文表記のあり方を提言する論文である。ここに提起される問題意識は、『萬葉集』だけでなく、どの文学作品を扱う際にも、留意されるべき点であろう。

本書は、全編を通して特定の巻や歌人の歌を考察する論文集ではなく、『萬葉集』収載歌を広く考究するものであるため、読者は種々の詠歌の形成過程を知る。また、いずれの論考も先行研究が詳しく記されており、研究史における位置付けが明確なため、初学者にもその研究意義や成果が理解しやすい一冊となっている。

（和泉書院、二〇二〇年二月、八四〇頁、一七、〇〇〇円＋税）

（ふくやま・みさと　本学大学院博士前期課程）